

第36回(2021年度)日本心臓財団予防賞、第17回(2021年度)日本心臓財団小林太刀夫賞  
受賞候補者募集

賞の概要： **日本心臓財団予防賞**

公益財団法人日本心臓財団より助成を受け、循環器病予防のために永年貢献した団体または研究者に、実践活動の発展とその社会への益々の寄与を奨励することを目的として設立されました。

**日本心臓財団小林太刀夫賞**

公益財団法人日本心臓財団より助成を受け、循環器病を中心とする生活習慣病予防に永年または近年著しく貢献したと認められる保健師、看護師、管理栄養士、栄養士の個人及び団体に、実践活動の発展とその社会への益々の寄与を奨励することを目的として設立されました。

候補者の推薦： **日本心臓財団予防賞**

候補者以外の本学会の評議員（理事、監事を含む。以下同じ）、並びに名誉会員からの推薦とする。推薦できる件数は1名1件とし、自薦は認めない。

**日本心臓財団小林太刀夫賞**

候補者以外の本学会の評議員、名誉会員並びに公的機関からの推薦とする。推薦できる件数は1名1件とし、自薦は認めない。

提出書類： 推薦書に下記内容を記載の上、事務局にご提出ください。（郵送またはメール）  
事務局で受領後、1週間以内に返信メールをします。メールが届かない場合はご連絡ください。

<日本心臓財団予防賞>

推薦書に記載いただく内容

- ・ 推薦者氏名
- ・ 候補者名あるいは団体名
- ・ 推薦理由

<日本心臓財団小林太刀夫賞>

推薦書に記載いただく内容

- ・ 推薦者氏名
- ・ 候補者名あるいはグループ団体名
- ・ 活動内容
- ・ 推薦理由

\*推薦書について

書式は問いませんが A4 1枚でお纏めください。  
参考資料がある場合は 2枚まで添付可とします。

\*本賞については、論文実績を主として評価するものではありません。  
活動実績に対して評価を行います。

選考方法： 次頁参照

推薦締切り： **2021年2月1日（月）必着**

お知らせ 上記受賞者には第57回日本循環器病予防学会学術集会で開催される表彰式の出席なら  
(重要)： びに学術集会での受賞報告ならびに学会誌への受賞概要報告を執筆いただきます。

<表彰式・学術集会受賞報告>

日時：2021年6月11日(金)

会場：名古屋大学 豊田講堂シンポジオン（愛知県名古屋市千種区不老町）

※表彰式については変更の可能性があります。

<問い合わせ・書類送付先> 日本循環器病予防学会 事務局

161-0034 東京都新宿区上落合 3-9-1 北村ビル 402号室

電話：03-6304-0760 FAX：03-6304-0565 メール：office@jacd.info

## 日本心臓財団予防賞選考細則

### 第1条 趣旨

日本循環器病予防学会定款第4条第1項第(3)(4)各号の事業として日本心臓財団予防賞の受賞者を選考・表彰する。

### 第2条 目的

日本循環器病予防学会は、循環器病予防の実践活動と斯学の発展に寄与することを目的として、循環器病予防のために永年貢献した研究者または団体を、日本心臓財団の委託により、同財団が設けた日本心臓財団予防賞の規程に基づき、毎年選考する。

### 第3条 受賞者

受賞者は、地域と密着して、日本人の死因の上位を占める循環器病予防のために永年貢献し、循環器管理の実効を挙げ、あるいは、循環器病予防のため学術研究開発に功績のあった研究者または団体で、この細則に基づいて推薦を受けた受賞候補者の中から選考する。成果が地域団体と研究者の一体となった活動の結果によるものであると認められる場合は、両者を併記する。

2 受賞者は毎年1名（または1団体、または1組）以内とする。

### 第4条 候補者の推薦

受賞候補者は、候補者以外の本学会の評議員（理事、監事を含む。以下同じ）、並びに名誉会員からの推薦とし、規定の推薦書を理事長に提出する。推薦できる件数は1名1件とし、自薦は認めない。

2 推薦書は該当年度の前年度の12月から1月末までに提出する

### 第5条 受賞候補者の選考

第3条により推薦された受賞候補者については、理事長が地域や職種を勘案して指名した評議員若干名を委員ならびに理事長を委員長とする選考委員会が選考を行い、最適の者を選定する。なお、委員は11月中に決定し、選考は該当年度の前年度中に行う。委員は推薦者となることができない。選考委員の任期は1年とし再任を妨げない。選考委員は選考結果の公開まで非公表とする。理事長は選考結果を理事会にはかり、その承認を受けて受賞候補者を決定し、日本心臓財団理事会の承認を得た後、受賞者に通知する。

### 第6条 表彰

該当年度の日本循環器病予防学会学術集会で開催される授賞式にて賞の贈呈を行う。

2 贈呈される賞牌及び賞金50万円は日本心臓財団からの資金による

### 第7条 学術集会での受賞報告ならびに学会誌掲載原稿の作成

受賞者は、該当年度の日本循環器病予防学会学術集会において、受賞内容を発表する。

2 受賞者は、該当年度の日本循環器病予防学会誌に受賞内容の概要報告書を掲載する。

### 第8条 細則の変更

本細則の変更は理事会の議決による。

# 日本心臓財団小林太刀夫賞選考細則

## 第1条 趣旨

日本循環器病予防学会定款第4条第1項第(3)(4)各号の事業として日本心臓財団小林太刀夫賞の受賞者を選考・表彰する。

## 第2条 目的

日本循環器病予防学会は、循環器病を中心とする生活習慣病予防の実践活動の発展とそのことを通した社会への寄与を目的とし、当該分野で永年または近年著しく貢献したと認められる保健師、看護師、管理栄養士、栄養士の個人または団体を、日本心臓財団より委託を受け、同財団が設けた日本心臓財団小林太刀夫賞の規程に基づき、毎年選考する。

## 第3条 受賞者

受賞者は地域と密着して、日本人の死因の上位を占める循環器病を中心とした生活習慣病予防のために永年貢献し、生活習慣等の改善により疾病管理に実効を挙げた活動、あるいは現在上記疾患予防のための創意工夫により将来において疾病管理の実行が期待できる活動を展開中の保健師、看護師、管理栄養士、栄養士の個人または団体とし、この細則に基づいて推薦を受けた受賞候補者の中から選考する。成果が地域団体と実践指導者の一体となった活動の結果によるものであると認められる場合は両者を併記する。

2 受賞者は毎年1名または1団体以内とする。

## 第4条 候補者の推薦

受賞候補者は、候補者以外の本学会の評議員（理事、監事を含む。以下同じ）、名誉会員並びに公的機関からの推薦とし、規定の推薦書を理事長に提出する。推薦できる件数は1名1件とし、自薦は認めない。

2 推薦書は該当年度の前年度の12月から1月末までに提出する。

## 第5条 受賞候補者の選考

第3条により推薦された受賞候補者については、理事長が地域や職種を勘案して指名した評議員若干名を委員ならびに理事長を委員長とする選考委員会が選考を行い、最適の者を選定する。なお、委員は11月中に決定し、選考は該当年度の前年度中に行う。委員は推薦者となることができない。選考委員の任期は1年とし再任を妨げない。

選考委員は選考結果の公開まで非公表とする。

理事長は選考結果を理事会にはかり、その承認を受けて受賞候補者を決定し、日本心臓財団理事会の承認を得た後、受賞者に通知する。

## 第6条 表彰

該当年度の日本循環器病予防学会学術集会で開催される授賞式にて賞の贈呈を行う。

2 贈呈される賞牌及び賞金50万円は日本心臓財団からの資金による。

3 授賞式出席時の旅費交通費は日本心臓財団からの資金による。

## 第7条 学術集会での受賞報告ならびに学会誌掲載原稿の作成

受賞者は、該当年度の日本循環器病予防学会学術集会において、受賞内容を発表する。

2 受賞者は、該当年度の日本循環器病予防学会誌に受賞内容の概要報告書を掲載する。

## 第8条 細則の変更

本細則の変更は理事会の議決による。

公益財団法人日本心臓財団予防賞  
歴代受賞者一覧  
(第35回(令和2年まで))

第1回(昭和61年)

久山町研究グループ

廣田 安夫 九州歯科大学内科(教授)  
上田 一雄 九州大学医療技術短期大学部(教授)

第2回(昭和62年)

八千穂村循環器疾患調査研究グループ

磯村 孝二 佐久総合病院内科(医長)

第3回(昭和63年)

世界7カ国研究(田主丸、牛深地区)グループ

田代 寛美 久留米大学医学部(助教授)

第4回(平成元年)

地域における循環器疾患管理に関する研究

飯田 稔 大阪府立成人病センター  
集団検診第1部(部長)

第5回(平成2年)

山梨県白州町における循環器疾患の疫学的研究

澤井 廣量 日循協(事務局長)

第6回(平成3年)

白川町における脳卒中・心筋梗塞と関連因子の動向と予防に関する研究

堀部 博 愛知医科大学衛生学(教授)

第7回(平成4年)

広島・長崎の固定集団における循環器疾患の予防に関する疫学的研究

加藤 寛夫 国立水俣病研究センター(所長)  
児玉 和紀 財団法人放射線影響研究所臨床研究部  
(部長)

第8回(平成5年)

北海道の農村における循環器疾患の疫学的研究

田中 繁道 札幌医科大学医学部内科学第二講座  
(助教授)

第9回(平成6年)

地域住民における循環器疾患の二次・一次予防対策の実践と疫学的評価

嶋本 喬 筑波大学社会医学系(教授)

第10回(平成7年)

新潟県新発田市における脳卒中の疫学と予防

田中 平三 東京医科歯科大学(教授)

第11回(平成8年)

脳卒中の二次予防、三次予防対策—脳卒中予防対策から老人保健事業の推進—

小澤 秀樹 大分医科大学公衆衛生学(教授)

第12回(平成9年)

職域・地域における循環器疾患の疫学的研究と予防教育活動

橋本 勉 和歌山県立医科大学公衆衛生学(教授)

第13回(平成10年)

循環器疾患の病理疫学的研究と地域における予防の実践

小西 正光 愛媛大学医学部公衆衛生学(教授)

第14回(平成11年)

生活習慣の改善による循環器疾患の一次予防に関する研究と実践

上島 弘嗣 滋賀医科大学福祉保健医学(教授)

第15回(平成12年)

過労・ストレスと循環器疾患の関連に関する研究

上畑鉄之丞 国立公衆衛生院(次長)

第16回(平成13年)

新潟県における突然死と虚血性心疾患に関する疫学的研究

豊嶋 英明 名古屋大学大学院医学研究科  
公衆衛生学(教授)

第17回(平成14年)

地域における循環器疾患による死亡の実態調査研究

西尾 一郎 和歌山県立医科大学循環器内科(教授)

第18回(平成15年)

効率的で精度の高い心血管疾患健診システムの開発

平盛 勝彦 岩手医科大学医学部内科学第二講座  
(教授)

第19回(平成16年)

循環器疾患予防に役立つ各種機器の開発

枳久保 修 横浜市立大学大学院医学研究科  
情報システム予防医学(教授)

第20回(平成17年)

幡野・壮瞥町研究の立ち上げとその後の医学部学生における生活習慣病危険因子の推進

菊池健次郎 旭川医科大学第一内科(教授)

第21回(平成18年)

職域・地域における循環器疾患の疫学研究

中川 秀昭 金沢医科大学健康・増進予防医学(教授)

第22回(平成19年)

高血圧における肥満とインスリン抵抗性の臨床疫学的意義の解明に関する研究

久代登志男 日本大学医学部総合健診センター  
(所長)

第23回(平成20年)

心臓病の再発や発症を予防するための研究と実践

和泉 徹 北里大学医学部循環器内科学(教授)

**第24回 (平成21年)**

家庭血圧・自由行動下血圧に基づく循環器病の予防戦略  
—大迫研究—  
今井 潤 東北大学大学院薬学・医学系研究科  
臨床薬学分野 (教授)

**第25回 (平成22年)**

心臓病の再発や発症を予防するための研究と実践  
島本 和明 札幌医科大学(学長)

**第26回 (平成23年)**

秋田県の脳卒中発症登録と健診データを利用した危険因子の解析と応用  
鈴木 一夫 秋田県立脳血管研究センター  
疫学研究部 (部長)

**第27回 (平成24年)**

広島・長崎における循環器疾患疫学研究ならびに  
NI-HON-SAN 研究と日本循環器病予防セミナーにおける若  
手研究者育成の推進  
児玉 和紀 公益財団法人放射線影響研究所  
(主席研究員)

**第28回 (平成25年)**

半世紀にわたる循環器疾患の疫学調査—久山町研究—  
清原 裕 九州大学大学院医学研究院環境医学  
(教授)

**第29回 (平成26年)**

生活習慣病に対する総合的保健指導法の開発と普及  
岡山 明 生活習慣病予防研究センター (代表)

**第30回 (平成27年)**

基礎病理から栄養疫学研究に基づく循環器疾患予防の実践  
家森 幸男 武庫川女子大学国際健康開発研究所  
(所長)

**第31回 (平成28年)**

循環器疾患の個人並びに社会的リスク要因の解明と予防  
対策の評価  
磯 博康 大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生  
学(教授)

**第32回 (平成29年)**

循環器病予防に携わる人材育成と川崎病による冠状動脈  
瘤予防研究  
中村 好一 自治医科大学公衆衛生学教室(教授)

**第33回 (平成30年)**

循環器予防への多面的アプローチ  
上嶋 健治 京都大学医学部附属病院  
臨床研究総合センター  
EBM 推進部 (教授)

**第34回 (令和元年)**

非侵襲的血管機能検査の循環器予防への導入とその有用  
性の実証  
山科 章 東京医科大学 (名誉教授)

**第35回 (令和2年)**

過栄養と代謝症候群を踏まえた循環器病予防の疫学研究  
と実践  
齋藤 重幸 札幌医科大学保健医療学部 (教授)

# 公益財団法人日本心臓財団小林太刀夫賞

## 歴代受賞者一覧

(第16回(令和2年まで))

### 第1回(平成17年)

地域住民における生活習慣病予防と健康増進への取り組み—久山町研究

久山町健康福祉課保健師グループ

角森 輝美・河邊シカノ・和田 紀子・

持袋由美子・稲永 みき・持松加奈子

### 第2回(平成18年)

地域での生活習慣病予防の総合的な取り組み

協和健康づくり実行委員会

### 第3回(平成19年)

高島市における長年の循環器病疫学研究への貢献と生活習慣病対策への取り組み

高島市保健師グループ

### 第4回(平成20年)

家庭血圧測定による生活習慣病予防と健康増進への取り組み

大迫保健師グループ

### 第5回(平成21年)

北海道の地域住民における循環器疾患予防への取り組み

端野町・壮瞥町保健担当グループ

### 第6回(平成22年)

保険者の保健事業への先進的取り組みと医療費効果の実証

岩手県矢巾町ヘルスアップ事業グループ

### 第7回(平成23年)

地域医療連携ネットワークを基盤とした心血管病患者に対する重症化予防・再発予防活動の取り組み

北里大学東病院心臓二次予防センター保健指導グループ

### 第8回(平成24年)

大規模コホート研究に基づいた保健施策支援ツールの開発と普及への取り組み

茨城県立健康プラザ保健施策支援ツール開発普及事業グループ

### 第9回(平成25年)

保健指導の向上のための保健指導標準化への取り組みとその成果

兵庫県丹波市健康部健康課丹波市保健活動グループ

### 第10回(平成26年)

都市部における住民主体の循環器疾患予防対策50年の取り組み

大阪府八尾市保健担当グループ

### 第11回(平成27年)

にいがた減塩ルネサンス運動の企画・計画・実施・普及活動について

新潟県庁並びに新潟県設置保健所に勤務する

行政栄養士グループ

### 第12回(平成28年)

都市部での循環器病予防の啓発と疫学研究を行うための取り組みとその成果

吹田循環器病予防友の会(さつき循友会)

### 第13回(平成29年)

データに基づく広域的な健康長寿プログラムの推進

静岡県庁並びに静岡県総合健康センターの

多職種グループ

### 第14回(平成30年)

市民への戦略的・継続的な循環器疾患予防対策の推進と医療費適正化への実現

尼崎市ヘルスアップ戦略グループ

### 第15回(令和元年)

18年目を迎える宇久町循環器検診における宇久保健福祉センターの取り組み

宇久保健福祉センターグループ

### 第16回(令和2年 2020年)

愛知職域コホート研究への協力と愛知県職員の循環器疾患を中心とする生活習慣病予防対策への取り組み

愛知県人事局職員厚生課健康管理グループ